

ニューヨーク補習授業校

ＬＩ校夏休み特集号

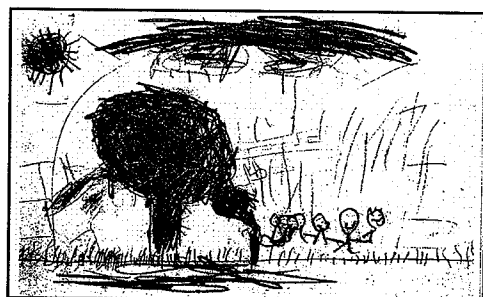
2008年 9月20日発行

914-636-3770

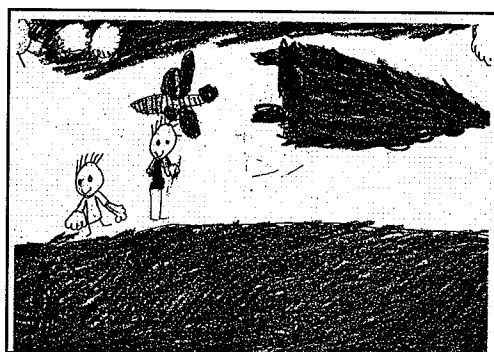
平成二十(二〇〇八)年夏。連日猛暑が続きました。この夏休み特集号には、この暑さに負けず思いきり活動したＬＩ校の子どもたちの熱い思いと貴重な体験がたくさんつづられています。この夏一番の思い出、楽しかったこと、印象深かったこと、自分ががんばることさらに成長できたこと、フィクション物語などなど。どうぞご家族皆様さんでお読みになつて下さい。そして、夏を思い出しながら家族団らんの話題にしていただければ幸いです。



年中1組 さるみだ みせい



年中1組 ヨウ ジュリアス



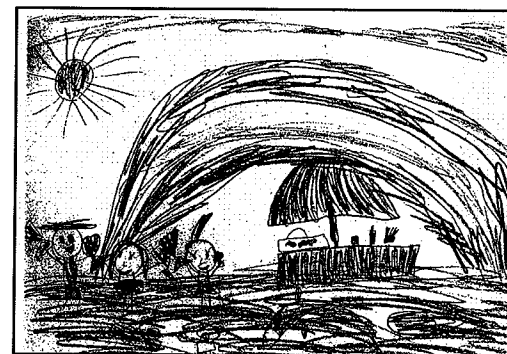
年長2組 きた ゆうく



年中2組 たかぎ れな



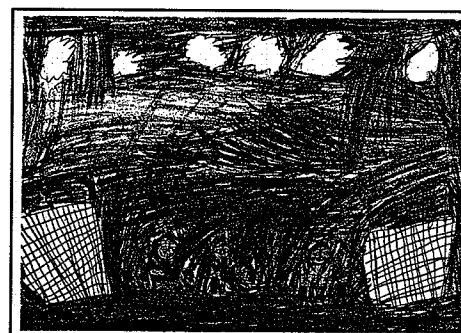
年長1組 ケニー まや



年中2組 みさわ みか



年長2組 みやざわ れお



年長1組 なかじま ブランデン

えにつき

ひまわりさんたち

月 日

し	す	ち	き	ま	せ	お
て	の	し	み	じ		
あ	あ	し	り	に	と	い
げ	と	か	ま	り	ち	
ま	で	し	さ	に		
し	に	さ	え	い	ん	
た	が	で	ひ	き	と	

一年一組 ほんま かんたろう

えにつき

ひまわりさんたち

8月 2日

も	さ	ま	み	お	と	ち	ほ	き
た	か	し	せ	と	お	と	く	の
な	だ	お	も	ね	お	の	う	
お	ち	さ	だ	え	ね	お	は	
り	さ	ば	ん	ち	さ	え	と	ぼ
が	ん	く	ち	と	ん	さ	し	く
み	ち	は	し	お	の	ん	だ	と

一年一組 くらだ ゆうと

えにつき

ひまわりさんたち

8月 19日

か	す	う	い	し	き	てんき	8
た	り	が	ま	う	せん	が	つ
い	の	た	す	ま	い	う	19
も	し	な	ふ	と	あ	あ	の
お	か	な	ら	れ	の	な	し
も	だ	み	ぐ	い	に	む	
し	た	の	に				
ろ	う	ぶ	に				

一年二組 おおの なしむ

えにつき

ひまわりさんたち

7月 30日

も	う	ま	り	ぞ	く	あ	あ
ち	ろ	し	く	と	じ	ば	あ
よ	は	た	こ	で	あ	さ	あ
か	と	う	あ	だ	ん	ち	い
て	ろ	に	ん	し	の	ち	
た	も	て	い	せ	の	かん	
で	き	ん	き	ん	か	ぞ	ん

一年一組 せきね みのり

えにつき

ひまわりさんたち

7月 24日

だ	い	り	お	ま	さん	と	せん	てんき	7
い	さ	が	の	し	に	き	せ	が	つ
す	ば	き	が	い	き	う	い	あ	24
で	り	と	よ	た	ま	の	あ	し	ま
す	て	り	あ	り	ア	サ	タ	の	り
	い	る	メ	カ	ヤ			の	よう
て									へい

一年二組 しまりようへい

えにつき

ひまわりさんたち

8月 9日

		を	す	い	バ	てんき	8
		る	け	フル	せ	が	つ
		み	か	て	ン	う	9
		つ	え	ぎ	ン	あ	い
		ける	げ	た	フ	い	
		た	の	こ	よ	エ	
		よ	お	と	ス	あ	
		も	お	タ	の		
		ち	と	に	ね		
		か	が				

一年二組 ふくだ あいり

「あそびに行ったこと」

初等部二年一組 アナビアン マックスウエル

今年の夏休みにかぞくとおばあちゃん、いもうたちと、くまもとけんのおそにじどう車でけきました。「あそ山は、まだいてる山なのよ。」とおばあちゃんがついてました。ぼくは、もし山がぼくはついたらどうしようとするしんばいになりました。車をおりて、さかを下つて、山が見えるところに行きました。山のかべにあるたくさんのおきなあなから、どんどんけむりがでていて、白いうどうぐもみたいに上にのぼつていきます。けむりは、いいにおいのか、くさいのかわからないへんなにおいがしました。火ごうの中には、大きなみずうみがありました。水の色はみどり色です。すこし黄色っぽく、とてもきれいでした。すこし歩くと、おみせがあつて、黄色のかたまりや石をうっていました。ぼくは、赤色の石とくろくて金色のキラキラする石をおとうさんにかつてもうりました。山はすこしこわかつたけれど、とてもきれいでした。

そのよるは、近くのペンションにとまりました。そこにはすこく大きな天文だいがありました。よるになつて、天氣がわるかつたので、お月さましか見られませんでした。でも、月のごうごうしているのがよく見えました。ぼくは月にあるアメリカのはたが見られるかなあと思つていたので、すこしがかりました。今どは、晴れの日にまた行きたいなあと思ひました。

「夏休みで一ばん楽しかつたこと」

初等部二年一組 中村 夢乃

日本の、上の小学校で体けん入学をしました。さいしよの日におかあさんがかえつた後、知らない友だちばかりだつたのでちよとなきました。でもみんなやさしくつてすくなかよくなりました。体いくの時間はプールでおよぐれんしゅうをしました。あまりじょうずになりませんでした。毎日きゅう食を食べました。ぜ

んぶおいしかつたです。きゅう食とうばんは、エプロン、ぼうし、マスクをつけます。わたしはきゅうにゆうをもちました。おもかつたです。日ちよくは朝の会のしかいをしします。二人でやります。どきどきしましたがつたししも日ちよくをやりました。クラスの友だちがつたしのことをおぼえてくれているといいな。またらい年も行きたいと思ひます。

「すいかのたね」

初等部二年二組 ウイリアムス ジュリエ



八日まえ、ペランダでスイカを食べながら本を読んていました。どこにたねをおいたらいいかまうていと、おばあちゃんが、花だんにすてなさいと言ひました。今日、ジェイドとお花をうえていたら小さなめがでているのに気がつきました。スイカのはつぱとそくりです。とてもかんげきしました。おばあちゃんにそのことをつたえと、お水をずつとやつていたとおしえてくれました。ありがと、おばあちゃんばんざい、おばあちゃん。

「おまつり」

初等部二年二組 サリバン 花理



きようは、日なた山小学校のおまつりでした。ヨーヨーつりやボールすくいをやりました。わたしがしや、どうもろこしを食べました。

すこく楽しかつたです。おもちゃもいっぱいあつて、おとうとは、かいたがつていました。いっぱい食べた

りあそんだりして楽しかつたです。あーわすれてたわたしの友だちの話

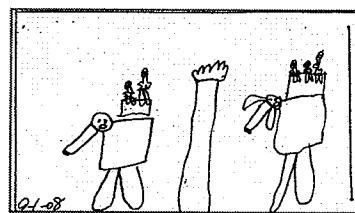


をしします。

わたしは、友だちをずーとまつていました。だけどきません。かえるとたん前の車から友だちがでてきました。これがわたしの話です。

「ぞうさんにつたこと」

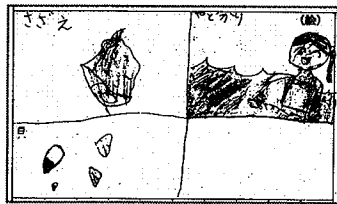
初等部二年二組 蘆田 大介



タイへ、かぞくでりまうに行つた時、ぞうさんにのりました。ぼくは、おとうさんとのりました。おにいちゃんたちはおかあさんとのりました。あかあさんは、ぞうがゆれたから、こわがつていました。ぼくとぼくのおとうさんのぞうさんはみちからおちそうに、くさをたべに行こうとしていました。おかあさんのぞうさんもおちそうになりました。おかあさんは、さけんでいました。雨がふりはじめました。いっぱいぬれしました。でもたのしかつたです。

「高浜の海」

初等部三年一組 豊田 真琴



今日、わたしは、わたしの太おばさん、お母さんと弟と海へ行きました。海はきれいな水色できらきら光つていました。わたしはさうそく海に入つておよぎました。そしたら小さい貝を見つけました。その貝をひろうとなんと小さな宿かりが中から顔を出して、「たすけてー」と言つていたみたい

に足をバタバタさせていました。その海の水はとてもきれいなので、わたしは小さいさやえとほかの貝を見つけた。けれど生きているので、海にもどしてあげました。海で見つけた貝はわたし

の海の思い出です。

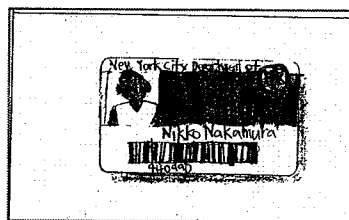
今日はさーいこうな日でした。

こんどまた行く時をまちきれないぐらい楽しみにしています！

「アクアテイクセンター」

初等部三年一組 中村 日弘

今日はママとパパとアクアテイクセンターに行きました。はじめはメンバーになってスイミングキャップとかぎをかいました。そしてロッカールームに行きかえて泳ぎました。プールにはいるとき水がつめたかったけどあつたかかったのでもちよかつたです。ぼくの泳いだところは三フィート六インチのふかきで足がついたので安心して泳ぐことができました。メンバーカードがあるのでいつでもプールに行くことができます。毎日泳ぎたいと思います。



初等部三年二組 大島 康
キャンプに行ったとき、外で夜ごはんのカレーをつくった。外はまっくらな九時ごろ、みんなであつたカレーを森の近くで食べていた。森の方から「ドシンドン」という音と「ウォーッ」といううなり声が聞こえた。かい中電とうでてらしたら、大きな黒くまが立っていた。走つてにげた。十分してもどつたら、ぼくのカレーとおやつのマシュマロが食べられていた。心ぞうがドキドキしたけれど、「くまはカレーやマシュマロをすきなんてぼくと同じだ。」と思った。

初等部三年二組 カイザー 嶺
七月十一日におおさいの公園ですべりだいのつてあそびました。死ぬほどあつたので、ねうちゅうしょうになる気がしました。だからできるだけ日かげにすることにしました。人もあんまりいなかったからしずかにあそべました。

「パパ、お月さまとって」

初等部三年二組 大谷 桃子

わたしは、夏休みの読書かんそう文で「パパ、お月さまとって」という本を読みました。
わたしは、このモリカと言う少女は、たぶん四さいぐらいの子どもで、いなかに住んでいて友だちやきょうだいもないから、とてもさみしいと思いました。だからお父さんに「お月さまとって」と言つたと思います。
わたしがモリカだつたら、「お母さん、お父さん、大きい町にひつして友だちをつくりたい。」と言うと思います。そしてわたしのお父さんだつたら、長いしほは作らないけど新しい家を作ると思います。

「ぼくのすきなケニアの村」

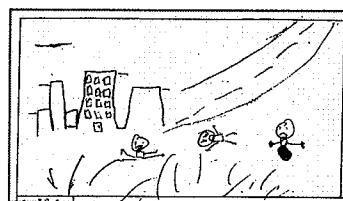
初等部三年二組 渡辺 竜

ぼくがこの本を読んで思つたことは、ケニアでは虫を食べてくらしているとは思わなかつた。ぼくは一回も虫を食べたことがない。だけど、この本を読んで、一回は虫を食べてもいいと思いました。
主人公の男の子は、おじいちゃんに牛をみはるようにな言われたのに村をたんけんに行つてしまつたけど、おじいちゃんはおこらなかつた。やさしくて、ぼくのおじいちゃんみたいだと思つた。

初等部四年一組 秋山 凱太

今日、大きな地しんがありました。そのせいで電になり、物も落ちました。

その時ぼくはねていたので、おかあさんがぼくの事を起こして、げんかんまで行きました。地しんがおさまつたら家が暗くなつたので、かいちゅう電灯をもちうラジオでニュースを聞きました。ニュースで人がけがをして病院に運ばれたといひました。その後電気が付きたテレビが見れるようになりました。テレビではいろいろなひがいが写っていました。
初めての地しんをけいけんしてびっくりしました。



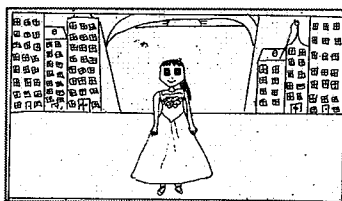
「キツザニア」

初等部四年一組 モンゴメリー 花子

今日、わたしはキツザニアに行きました。キツザニアは子どもたちが大人の仕事をしてお金をもらいます。お金がいつばいたまつた時は、銀行へ行つて、自分のお金で好きな物を買えます。

仕事はいろいろあります。たとえば、わたしがやつたのは、歌手、モデルともう一つはかんごふさん。だけど、それだけではありません。自分でやくピザやさん、アイスクリームやさん、ファッションデザイナー、消防車隊、ハイチヌウを作る人、写真家、パイロット、黒ネコヤマトの宅急便など、いろんな大人の仕事があります。

モデルになる時は、部屋に入つて、渡されたドレスに着がえます。そして、ステージに立つて、キャットウォークで歩きました。ファーストポーズや好きなポーズを

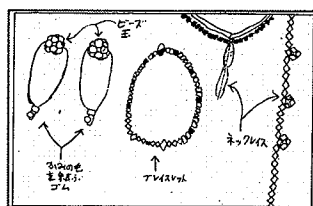


取ります。

かんごふさんになる時は、好きな赤ちゃんをえらん
だら、その赤ちゃんのためにおふろや服を着がえさせ
て、赤ちゃんをねかせます。みなさんも行ってみてくだ
さい。

初等部四年一組 日向 悠

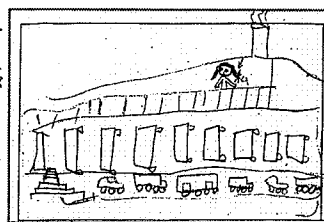
きのう、東京のおばちゃん（父さんの弟のおよめさ
ん）が私と弟とお母さんにいろいろなビーズでブレスレ
ット、ゆびわ、ネックレスの作り方を教えてくれました。



私は、ブレスレット、ネックレス二
つ、かみのゴム二つを作りました。
お母さんはピアス、ネックレス、
ピン、かみの毛のゴムを作りました。
弟はネックレスとブレスレッ
トを作りました。妹は、ネット
スとブレスレットを作りました。
いとこのななちゃんは、ゆびわと
ブレスレットを作りました。私
たちは、そろばんビーズ、プラスチック、ガラス、ボタン
をつかいました。のびるひもとのびないほそひもをつか
いました。私たちは何時間もやっていました。やつてい
る間、しらないうちにもうタごはんになっていました。ビ
ーズでアクセサリを作るのは楽しかったです。また来
年もやりたいです。

初等部四年一組 木元 あかり

私と妹とおかあさんとおばちゃんとおばあちゃんと
岡山県に行きました。そこでフェリーに乗ってせとない
かいに行きました。フェリーに乗っている間、けしきを見
ました。小さな島がいっぱい、海も大きく広がっていま
す。せとないかいの直島に行きました。直島はとても暑
かったです。でもいっぱいのおもしろいものを見てよかつた
と思います。一番おもしろかつたものは、家プロジェクト



トと言うプロジェクトです。そのプ
ロジェクトは島にある古い家や寺
をアーティストが作り直したプロ
ジェクトです。サイトは六つあり
ました。私はそのうちの二つを見
ました。私が一番好きなのはプロジェ
クトは昔の寺でした。その寺の中
にトンネルがありました。そのト
ンネルの中は暗くて、細長くて人
一人がようやく歩けるぐらいでした。かい中電とうを
もつて中に入りました。トンネルの中に大きなガラスの
かいだんがあります。そのかいだんをのぼる事はできな
いけれど、見てもいいのです。ガラスのかいだんの前に池
がありました。とてもかわつたプロジェクトでした。今
どはもつと見たいです。

「僕達の夏休み」

初等部五年一組 坪 維生樹

七月二十四日から二十八日までお父さんも夏休
みでした。僕達は家族でモヒガン・サンに行く事にし
ました。そこはお父さんの友達がメンバーになっているの
で、ホテルに安く泊まれるのだそうです。そこに行く
と決まてから僕はうれしくて、お母さんの言う事を聞
いて、宿題もがんばってやりました。

そして、今日は待ちに待った出発の日です。僕は早
く行きたくて仕方がなかったけど、モヒガン・サンには、
夕方友達と約束をしているからそれまでやる事をやつ
てからと言われてがつかりしました。

お父さんとお母さんは家の中のそうじをしたり、せ
んたくをしたり、途中で食べるものを用意したりと、
とても忙しそうでした。そしてやつと準備が出来て出
発です。でもお父さんとお母さんは、真つ直ぐ、モヒガ
ン・サンに行ってくれませんでした。途中のアウトレット
にいつてふくを買うというのです。僕は早く、早くと思っ
ていましたが、欲しかった時計を買ってくれるので、う

れしかつたです。そして買い物が終わわり、今度こそモヒ
ガン・サンに向けて出発です。そこには、夕方六時すぎ
にやつときました。友達はまだ来ていません。ロビーで
まつていたらお父さんの友達がようやく来ました。そ
して、チェックインです。でもスムーズにいきません。なぜ
なら僕達がチェックインした時間は六時すぎでいたか
らです。お父さんの友達がフロントの人に話をしてく
れて、やつと部屋がとれました。そして、部屋に行つたら
びつくりしました。ワンベットルームにソファがベッドに
できたり、バスルームは、シャワーとバスタブです。僕達
は十八かいにいました。でもホテルは三十かい以上あ
ります。もつとすごいのは、ロビーのエスカレーターで下
にいったら、キッズアーケードや大人のためのカジノとお
店がありました。

こんなにしあわせになれたのはお父さんの友達のお
かげです。

初等部五年一組 ギラム 研穂

ぼくが夏休みの間、一番楽しかつたのは、家族と旅
行をした時です。一番の目的は、今年九十六才にな
つたマージョリーおばさんに会いに行くことでした。マ
ージョリーおばさんは、ぼくのパパのおじいさんの一番下
の妹で、ウエストバージニアに一人で住んでいます。でも、
すぐ近所に住んでいるブラッドフィールド一家がマージ
ョリーのお世話をしています。回りには、とても広いし
ば生があり、年おいた二ひきの犬、マットとジェラがおば
さんを見守っています。ぼくたちが着くとマットとジェラ
は、とても喜んで迎えてくれます。

昨年、マージョリーの所に行つた時、おばさんは、肺炎
から回復しようとしている時でとても弱っていました。
でも、ぼくたちの顔を見ると少し元気になりました。
それでも、マージョリーの大好きなスクラブルをしてい
しょにあそびました。今回、会つた時は、すっかり回復
して、ぼくたちをカウティファイアのカーニバルに連れ
て行ってくれました。マージョリーはあまり長く歩けな

いので、ほとんどいすにすわって、ぼくたちが、のり物にのって遊んでいるのをうれしそうに見ていました。

そこで、ぼくは、フラネルケーキを食べてとても満足でした。本当においしかったです。

マージョリーが元氣になって本当に良かったと思います。また来年もマージョリーに会いに行きたいです。

「日本の学校へ行って」

初等部五年一組 田中 豪

今年も去年同様に日本へ帰国しました。一年ぶりに日本の学校へ行った時、ぼくはとてもきん張しましたが、みんなが親切にむかえてくれたので、ほっとしました。

今年の先生は阿部先生で去年よりもっと楽しかったです。なぜなら、学校での最後の日、特別にぼくがみんなに英語の発音のしかたなどの授業をしたからです。中でも英語のじゅくに行っている子がたくさんいて、その子たちの発音はとてもよかったです。お別れ会では、みんなドッジフリスビーを使ったゲームをしました。たくさん当てられたけど、みんなと遊ぶのがとてもおもしろかったです。最後にみんなからお手紙をもらいました。中には、「いろいろわからない事があつたと思うけど、いろいろがんばってすごいと思った。」など感情がこもったものもあつて、ほかがゆるむほど感激しました。

アメリカの学校は、日本にある学校とちがうところがたくさんあります。たいていの日本の学校はプールの時間が学校にあつて、給食も栄養がとれていて、家庭科の時間もありました。アメリカの夏は、みんながバテるほど暑いので、ぼくはアメリカの学校ほとんどにプールをつけたらみんな大喜びだと思っています。

お手紙の中で、「短い間だったけれど、」という言葉がたくさんあつて、ぼくは本当に短い時間だったなと感じました。けれど、みんなのとなくさんの楽しい思い出

を作れてよかったなと思いました。

「夏休みで一番いやだった日」

初等部六年一組 松代 愛加

今日は最悪の日でした。なぜかというと、今日、じゅくでの「エッセイ・コンテスト」が始まる時、鼻血が出ました。最初は、鼻水と思って手で鼻をふさいで見てみたら、どうめいではなく、真つ赤な色の血でした。手からボトンボトンおちて、コンテストも始まっているのに真つ白な紙が、真つ赤にそまっています。いそいでトイレに行きました。もう私の顔もはさくさで真つ赤でした。ティッシュを何まいもつかんで鼻をふさいでも、中々止まらなくて、パニックしていた私を見たおねえさん達が心配そうな顔をして私をオフィスの連れて行ってくれました。だんだんクラクラしてきました。目の前が真つ白になりました。オフィスの先生達も氷の入ったふくろをおでこにあててくれました。先生はきつとつかれが出ていたのだらうとやさしく言ってくれました。

やつと落ち着いたので、急いでクラスに戻りました。私の事を心配してくれた先生達の事を考えながらエッセイを書きました。

もう鼻血なんていやだと思いました。でも色んな人が心配してくれてちよぴりうれしかったです。

「ローザ」を読んで

初等部六年一組 ソーリアル 恵史

たった一人の人でも、出来ることがある。一九五五年、十二月一日にアメリカ、アラバマ州バーミングハムでローザ・パークスがやったのがそれだ。

ローザ・パークスのこの動がすごいのは、今までだれもやったことがなかったからだと思う。どうして、こんなことができたのだろう。

パークスはとてもいい人で、誠実、そして勇氣があつて心の中に強さをひめている人だ。一人でやったことだけ

ど、パークスのおかあさんや他の人のサポートもあった。二十五人の女性が手をつなぎ、ビラを作った。キング牧師も、「バスには乗らないことにしましょう。」と言ったので、それから、人びとは歩くようになった。すごいボイコットだ。

約一年後にその結果が実った。最高裁判決でバスの席を人種で分けることはイリガールになったところが、一番感動した。ローザ・パークスがボイコットしなかったら、世界は変わっていなかっただろう。

初等部六年一組 吉藤 海

「ワイイ楽しみ。もうすぐサイクロンに乗るぞ。」

ぼくはこわくなかった。そして、ぼくは、ローラーコースター(サイクロン)を見上げた。

「えー、けっこう高いな。」

「ドキドキドキドキ」

ぼくの心がゆれてすこしこわくなってきた。乗り場がすいていて、並ぶ必要がなかった。だから心の準備ができる前にサイクロンが動きだした。最初の坂に上りつめた。

「こわい。もう帰りたい。」と思った。でもぼくは頭で

「できるぞ。いけるぞ。」

と思つて目をあけた。もう頂点にとどいた。世界が一瞬、止まった気持ちがあった。あつという間にぼくの体が急落下した。目をつぶっていたけれど、あけつづけた。同じモーションが何回もつづいた。だんだんなれてきた。けれども一度すこしこわいところがあつてサイクロンからおちそうな気がした。ついにサイクロンがとまった。ぼくは少しふるえていた。そしてふるえたまま、

「またいきたい。またいきたい」とさげんだ。